

論文審査の結果の要旨

氏名：仲 野 由佳理

博士の専攻分野の名称：博士（教育学）

論文題名：矯正教育におけるナラティブ実践の機能に関する教育学的研究

——過剰な権力を棄却する自律的な主体変容に向けて——

審査委員：(主査) 教授 広 田 照 幸

(副査) 教授 望 月 由 起

(副査) 京都大学教授 岡 邊 健

本論文は、日本の少年院における矯正教育の効果を、そこでのナラティブ実践が持つ教育的機能に注目して考察した論文である。論文が主題とする問いは、矯正教育が学校教育以上に教育の権力性を帯びながら、それにもかかわらず、少年の更生と社会復帰に向けて自律的な主体の形成を実現している、その教育的なメカニズムは何かを明らかにしようとするものである。

論文では、先行研究を網羅的に検討して課題を設定する序章に続いて、第1・2章では少年矯正の歴史をたどり、少年のナラティブに着目した矯正教育の実践が注目されるようになってきた経緯を整理している。第3章では少年の変容を「ナラティブ」概念を用いて解釈するための理論的な検討がなされ、第4～6章では、少年院でのナラティブ実践の考察が、第7・8章では少年院出院後の更生保護施設でナラティブの変容過程が、それぞれ綿密なフィールド調査をもとに考察されている。終章では、以上の各章の知見をまとめながら、矯正教育におけるナラティブ実践が少年の変容とどう関わっているのかを整理して論じている。

本論文は多様な研究上の意義をもっている。第一に、最も重要な意義として、少年院の教官がこれまで暗黙知として実践的に作り出してきた、少年自身の語りを重視する教育手法を、理論的かつ実証的な観点から考察し、そのメカニズムを説明した点である。内面の葛藤を安易に解消せず保持し続ける(第4章)、教官と少年とで物語を紡ぎ直していく(第5章)、少年自身による新たな物語の創出(第6章)など、これまでの少年院の教育実践に関し、質的調査をもとに考察を進めている。目の前で観察される事象の一般的な性質を説明するために、独自の分析概念を設定し、それを用いた命題を積み上げていながら厳密な解釈を与えていくことで、「少年の変容」についての体系的で納得のできる説明を提供している。矯正教育における従来の効果検証は、少年のさまざまな属性要因や教育プログラムごとの再犯・再非行率の確認など、主に統計的な議論に止まってきており、収容少年の変容についての理論的説明は概括的なものにとどまっていた。そうした中で、本研究は、少年の変容に関する説得的な説明を提供しており、学術的にも意義があるし、今後の矯正教育の実践に対しても大きな貢献となっている。

第二に、本論文は、単に少年院の内部での矯正教育を観察・調査しただけではなく、出院後の少年たちが直面する現実の中で、在院中に作り上げた物語がどう変容するのかを考察した点に大きな意義がある。少年院の中での変容を考察するだけでなく、その後の再変容の過程まで含めて考察しているのである。出院後の少年たちは、在院中に作り上げた「自分は変わった」という物語を、そのまま簡単に社会の中で維持し続けるわけではない。出院という急激な環境変化の中で動揺し、さまざまな反応が生まれる(第7章)。しかし、それは<変容の物語>の再構成という形で、社会の中での適応に生かされていくことが示されている(第8章)。出院後の少年の変容を考察に加えたことで、「少年院の矯正教育は、少年の更生にとって果たして有効なのか」という問いに対して、説得力のある答えを導き出しているといえる。

第三に、本論文は、教育学全体に対して意義のある、原理的なレベルでの知見を提出している。序章で述べられているとおり、学校教育に典型的に見られるように、若い世代に対する教育は、多かれ少なかれ、「強制(的な教育)を通して、自律(的な主体)を形成する」という性格を持っている。仲野氏がここで注目した少年院の教育は、圧倒的に強制性が強い教育の場であり、そこで得られた知見

のある部分は、教育全般に拡げてみていくことが可能なものである。強制的な環境の中での自律性の獲得という主題に関し、被教育者が自ら紡ぎ出すナラティブとその変容に注目する本論文の視点と知見は、青少年全般を対象とした学校教育についての考察にも応用できる。本論文の終章では、教育全般についての理論的な考察まで議論が及んでいないという点ではもの足りなさも残るけれども、本論文の序章の問いの設定を引継ぎながら、仲野氏が提示した新たな概念や命題を足場にして、今後のさまざまな研究が進んでいくことが期待できる。

本論文は、優れたフィールドワークの成果をコアとしながら、矯正教育及び教育学全体にとって、重要な知見を提供するものである。

よって、本論文は、博士（教育学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

令和4年6月27日